



FACE

パティシエ部・学友会のわらび餅出店
東市高円の杜夏祭りにて（2017.8.16）



生活未来科・食物栄養コース
パティシエ部
服部 遥さん

VOICE

幅広い世代の学生を温かく迎え入れて、
みんなで学び合っている環境が魅力です。

今回は生活未来科食物栄養コース2回生の服部さんにお話を聞きました。まずは夏祭りでのわらび餅出店、いかがでしたか？

「昨年もパティシエ部でわらび餅を出店したのですが、今回はきな粉をかけたものに加えて、ピンクグレープフルーツ味、レモンティー味、そして、お子さん向けに『魔法の粉』付きソーダ味の4種類を用意しました。160食分の調理は大変でしたが、『おいしい』という言葉がいただける度に、とてもうれしい気持ちになりました。地域の方々がたくさん集うにぎやかな夏祭り、夜は盆踊り。思い出に残る夏の日になりました。」



服部さんは社会人経験をお持ちだと聞きましたが、本学への進学に至った経緯は？

「しばらく仕事をしていたのですが、資格をとって手に職をつけたいと思っていて、実は、20歳の時に食べ物のアレルギーが急に出てきたのがきっかけで、食べ物のことを勉強したいなって調べていく中で、栄養士という仕事に出会いました。入学前は、周りど年齢が違うだろうから馴染めるかどうか不安でした。でも、私の学年は他に社会人の方が多くて安心したし、高校から進学してきたみんなとも分け隔てなく一緒に学生生活を楽しんでいます。年上だから多少は『お姉さん』と思われるんですけど、みんなでごはんを食べに行ったり、遊びに行ったり、すっかり仲良しです。大学の先生は、私が思い描いていたよりもずっと優しく、温かいです。自分たちのやる気次第でどんどん力を磨いていける環境で、それを先生や職員さんたちが目一杯応援してくれるのもいいところです。」

幅広い世代の学生で学び合うのも短期大学の魅力ですね。服部さん、卒業後の見通しは？

「栄養のことを勉強していく中で、身体のことをもっと学べば食べ物のことで辛い思いを



している人の力になれる、そう考え始めました。卒業後はまた別の学校に編入し、看護師資格の取得を目指します。」

社会人も含めて、本学への進学を検討されている方々へメッセージをお願いします。

「奈良佐保短期大学に一步足を踏み入れれば、社会人経験がある方も、働きながら通学する方も、温かく受け入れてもらえて、しっかりスイッチを入れてみんなで学び合っている環境があります。それに、地域活動や大学祭、フィールド制など、自分の力をたくさん伸ばせるチャンスがあるのも魅力です。安心して、一步踏み出してください！」



- 1 夏の昼下がりの1号館前、入試・広報センターのスタッフ勢揃い。奈良佐保短期大学オフィシャル・グッズとスタッフシャツで、受験生の皆さんをお待ちしています！
- 2 杉原 麻起さんは、大学職員として30年以上、本学の学生の成長を温かく見守ってきました。広報担当として、この歴史ある奈良佐保短期大学の魅力の皆様にお届けしています。
- 3 大学職員として10年目のキャリアを迎えた山田 裕子さんは、主に入試担当の職員です。実習助手、教務、入試・広報と様々な角度から職員として学生生活を支えてきました。



悩んだ時こそチャンス！その真剣な思いが新しい可能性を切り拓く。

奈良佐保短期大学の魅力あふれる職員から受験生の皆さんへメッセージをお届けします。今回は、入試・広報センターの出番です。まずは仕事の紹介からお願いします！

杉原「広報は、本学の特色や魅力を広く発信していく仕事です。『奈良佐保で学べて本当に良かった。』そう言ってもらえるように、高校生の皆さんが『納得感』を持って受験できるような広報を目指しています。」

山田「私は主に入試の担当ですが、受験生の皆さんにはオープンキャンパスでお会いすることも多いです。本学独自の入試制度、奨学制度についてご案内しています。『つながり』を広げ、その『つながり』に支えられての仕事です。誠心誠意、心をこめて業務に取り組むことを心がけています。」

では、学生の成長を長年見守られきて、あらためて本学の教育に何を感じますか。

山田「うちの学生は、とにかく素直で感受性豊かです。さらに、そこに加わっていくのが『たくましさ』です。私たちの予想をこえて成長を遂げていく、大人になっていく学生の姿は感動的です。それぞれの壁をのりこえて、その度にたくましく成長していく。これが、奈良佐保短期大学のスタイルなんだと思います。」

杉原「卒業生の職場に訪問してお話を聞くことも多いんですが、卒業生が働いている様子を垣間見て、在学中の姿を重ねながら『ああ、すごいな』と感心しています。2年間という時間が、職場での成長へと確かなにつながっているんですね。卒業してから、あらためて2年間で学んだことの大切さに気づく。卒業生本人もその実感語っていました。」

最後に、受験生の皆さんにメッセージをお願いします。

山田「進路選択には悩みがつきもの。でも、『悩んだ時こそチャンス』だと思います。時間をかけて悩めるというのは、そこに自分の真剣な思いをかけている証拠です。悩み抜いて選んだ道ならば、その真剣な思いが必ず自分の新しい可能性を切り拓いてくれるはずですよ。」

杉原「自分で足を運んで、自分の眼で見て、肌で感じて、そうした動きの中で学びたいことや将来の目標がカタチになってくるのだと思います。ぜひ、オープンキャンパスに参加して、本学の教育を体感してください。教職員一同、お待ちしております！」

「プチアセビ」のバックナンバー
もご覧いただけます。

